超高層ビルの屋上で母子たちが大乱交

ジリジリと肌を焼く太陽の日差し。
ビルの白いコンクリートの壁に反射した日光は広い街のあちこちへとまばらに飛んでいく。
直射日光は物理的に考えれば歴然のように、高ければ高い場所の方が強い。
もっとも、過去に建造された一般的な高さの建造物程度の高さであればさほどの違いはないであろう。しかし、近年建てられたこのビルについて言えば話は別だ。２００階建てのこのビルの屋上は現在の人工建造物の中でも限りなく地上と高低差がある場所と言える。ビルの最屋上に位置する小さな広場、ここは**人が作った限りなく鋭角な山の頂**だ。
ここでは一年の様々な時期に行事が実施される。夏場のバーベキュー、冬場のイルミネーション、秋になれば秋の食彩を並べ、そして四季に関係なく眺め格別の展望台としての役割も持つ。

・・・そんな数々のイベントが行われる中、数ヶ月前から実施され始めた毎月恒例の特殊なイベントがあった。

それは

“母子大乱交”。

シンプルにそのままの意味、ビルで母子たちが大乱交をするのだ。

母子同士が大乱交をすることが美徳であり、**エロティシズムの**

極致であるという結論に人類が達した現在、今や各地で母子乱交が行われているのだが、この度その会場の一つとしてここが選ばれたのだ。
ちなみにこの場所が選ばれたのは、それなりの深い理由があった。

セックスとは“本能”。

一方で人類は歴史の中で実に高度な“文明”を発展させてきた。

ハイパービルディングとも呼ばれる超高層ビルはその代表例。もし仮に未開の地の住民たちそばへやって来て見上げようものなら“神が作ったとしか思えない”とでも言いそうな膨大でありながら精密な佇まい。まさに人類の叡智が集まった結晶と言える。
しかし一方で、どれだけ文明が進み人類の知能が高度なものになろうと、本能であるセックスだけは何も変わらない位置にある。
考えてみればおかしなこの現象は、あえて言葉にしたり議論や研究の俎上に載せられることこそなくても、人々は分かっていたのだ。どうにかして混ぜ合わせてみようではないか、と。
だからこそ・・・・。
人工物の最高峰とも言える、

高層ビルの頂上で母子たちが野性的セックス。そのアンバランス。

それが盛り上がるのである。
あえて言ってみるならば、これが超高層ビル屋上というヘンテコな場所で母子大乱交が行われることになった理由だ・・・。

「エハァッ！！マジマジッ！！坂本さんところのエミさんとぉっ！！へぇぇっ！！」

「真面目そうに見えてやることやってるんじゃんっ！ジュンくんってっ！！」
「ほんとほんとっ！！何だか実はすっごく淫乱なんじゃんっ！！フフッ」
ゾロゾロと“会場”に足を運ぶ母たち、そしてその後に続く息子たち。
基本的により元気なのはむしろ母たちの方で、息子たちは健康ではあるが雰囲気的には大人しく、前を歩く母たちに従う感じ。やはり母子大乱交を繰り返してセックスには慣れたとは言え、経験豊富で極限までに淫乱な母たちのリードに押され気味の息子たち。
しかし、

「な・・・なんだかやっぱさっ、大乱交の前ってドキドキするよな・・・」
期待に胸は膨らんでいることは事実、そして、
「だよなぁ。ホント慣れないよな・・・・いつもヤバいくらいドキドキするもん・・・」
期待にその股間が膨らんでいることはもっと確かな事実であった。
驚くなかれ、参加メンバーたちの出で立ちはすでに全裸である。
下階にある設備の整った脱衣所にて、皆準備を済ませている。

野球にユニフォームがあるように、セックスにもちゃんとしたユニフォームがある。それが裸というわけだ。

もちろん息子少年たちの膨らんだ股間は、すでに母たちにも見れる状態でブランブランと露わになっている。

「んあぁん・・・だけどほんとに今日も楽しみよっ！ウフフッ」
「そうね、想像しただけで・・・・ムフフフッ」
まだ“開始前”から“開始後”を想像していやらしい笑みを浮かべる熟女たち。
緩く軽い風が集団で列をなして会場へと一歩一歩足を運ぶ母子たち

の肌をなぞる。ほんのり蒸し暑い夏本番のわずか手前の街中の高台に、
母たち息子たちの背中や太ももはうっすら汗ばんでいる。

体験版はここまでです。

もし内容を気に入っていただけましたら、

続きを製品版でお楽しみいただけますと光栄です。